

科目名 (科目番号)		臨床実習 (時間割参照)	教員名	医療技術学科 教員	学科等	医療技術	必修	履修年次	3・4
					曜日・時限等	時間割表参照	単位数	4	
					授業形態	実験・実習	オフィスアワー	各担当教員シラバス参照	
授業概要		臨床工学技士としての基礎的な実践能力を身につけるために、臨床工学技士の活躍する病院の各部門で体験学習を実践する。またチーム医療の一員としての責任と役割を自覚すると共に、医療従事者としてのマナーやルールを学ぶ。主な実習項目は血液浄化業務、集中治療室(人工呼吸器実習を含む)・手術室(人工心肺装置実習を含む)業務、医療機器管理業務などであるが、この他高気圧治療業務および他の医療機器(除細動装置、人工ペースメーカ、輸液ポンプなど)の操作および保守点検、システム安全などに関する内容を適宜含める。							
目的・目標		目的:学内実習では知り得ない医療現場における医療従事者のマナーやルールを理解し、臨床工学技士の業務である各種生命維持管理装置およびその周辺機器の操作・運用・保守点検方法について理解する。 目標:実際の医療現場において医療従事者としてのマナーやルールをしっかりと理解できると共に、生命維持管理装置およびその周辺機器の操作・運用保守点検方法について理解できる。							
準備学習									
授業計画	回	授業項目		到達目標・学習内容					
	1	Ⅰ. 実習目的および目標		学内で習得した知識・技術を実際の臨床の場で実習することを目的としているが、実際の患者環境下での実習の中で医療人としてのマナーや他の医療スタッフとのコミュニケーション能力を培うことも本実習の大きな目的である。従って医療人として直接生命に係る業務の中で医療スタッフとのコミュニケーションを通じてチーム医療の大切と技術の研鑽の重要性を理解し感じてもらうことを目標としている。					
	2	Ⅱ. 実習期間と実習病院および実習方法と実習項目		実習期間は約2か月であり、実習病院は筑波大学医学部付属病院、土浦協同病院をはじめ茨城県内の総合病院で下記の部門を少人数のグループに分けて、ローテーションしながら学ぶ。					
	3	1) 手術室部門		人工心肺装置の臨床実習を通して、医療における臨床工学技士の役割と責任を認識すると共に、電気メスや心電図モニタ、血圧・血流モニタ装置などの周辺装置の操作・運用方法についても実習を通して理解する。					
	4	2) 血液浄化部門		血液浄化装置の臨床実習を通して、医療における臨床工学技士の役割と責任を認識すると共に、各種患者監視装置やプライミングと洗浄作業などに対しても実習を通して理解する。					
	5	3) 集中治療室部門		ICUやCCUあるいは重症病棟で臨床工学技士の役割と責任を認識すると共に、人工呼吸装置や補助循環装置および各種の監視装置、輸液ポンプなどの操作・運用方法などについて実習を通して理解する。					
	6	4) 高気圧酸素治療室		臨床工学技士の業務の1つである高気圧酸素治療装置の操作・運用について臨床工学技士の役割と責任を認識すると共に、高圧酸素療法の適用例などについても理解する。					
	7	5) 医療機器管理部門		医療機器管理部門における臨床工学技士の役割と責任を認識すると共に、医療機器の安全性と信頼性の確保を念頭に機器・システムの保守・点検とその管理方法について実習を通して理解する。					
	8	Ⅲ. 実習方法の変更について		実習内容の変更や実習部門のローテーション順番の変更については実習病院により随時変更することがある。					
	成績評価の方法・基準		各臨床実習病院の評価をもとに実習前後の学習状況を勘案して総合的に評価する。						
教科書		専用の教科書は指定しない。配布した実習ノートに記載されている事項に該当する教科書を各自用意すること。						本学の作成した資料および実習ノート	
参考図書		実習項目に該当する参考書を持参							
教員からのメッセージ		原則1回の欠席も認めないので、実習中は十分に健康管理に留意すること。病欠などやむを得ない事情により欠席する場合には実習先の該当部門の担当教員に連絡すると共に実習担当教員に連絡し指示に従うこと。評価については別途評価表を提示する。							